

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎演習	1	3	スポーツ探究科（選択）

使用教科書	副教材等
なし	チェック&演習 生物基礎（数研出版） ニューステージ生物図表（浜島書店）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。
②思考・判断・表現	観察、実験、演習などを行い、科学的に探究する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。また、生命を尊重し、自然環境の保全に取り組もうとしている。
評価方法	
知識・技能	: 定期テスト、学習課題（デジタル課題・ワークシート）
思考・判断・表現	: 定期テスト、学習課題（デジタル課題・ワークシート）、発表（プレゼンテーション）
主体的に学習に取り組む態度	: 学習課題（デジタル課題・ワークシート）、課題・提出物・グループ活動等への取り組み状況

学習計画									
月	項目	使用教科書項目	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点					
				①	②	③			
4	生物と遺伝子	生物の特徴	生物の特徴についての観察、実験、演習などを通して、生物の特徴及び遺伝子とその働きについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。	○	○	○			
5				遺伝子とそのはたらき	遺伝子とその働きについての観察、実験、演習などを通して、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成について理解し、それらの観察、実験などの技能を身につける。	○	○	○	
6						生物の体内環境の維持	神経系と内分泌系による調節についての観察、実験、演習などを通して、情報の伝達、体内環境の維持の仕組みについて理解し、それらの観察、実験などの技能を身につける。	○	○
7	生物の体内環境の維持	体内環境の調節と免疫	体内環境の調節と免疫のしくみについての観察、実験、演習などを通して、体内環境の調節の仕組みや免疫の種類や機構について理解し、それらの観察、実験などの技能を身につける。	○	○			○	
9				生物の多様性と生態系	植生の多様性と分布	植生や遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見い出して理解することができる。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる。	○	○	○
10							生態系とその保全	生態系と生物の多様性に関する観察、実験、演習などを行い、生態系における生物の種多様性を理解し、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解することができる。	○
11	生物の体内環境の維持	体内環境の調節と免疫	体内環境の調節と免疫のしくみについての観察、実験、演習などを通して、体内環境の調節の仕組みや免疫の種類や機構について理解し、それらの観察、実験などの技能を身につける。	○	○	○			
12				生物の多様性と生態系	植生の多様性と分布	植生や遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見い出して理解することができる。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる。	○	○	○
1	生物の体内環境の維持	体内環境の調節と免疫	体内環境の調節と免疫のしくみについての観察、実験、演習などを通して、体内環境の調節の仕組みや免疫の種類や機構について理解し、それらの観察、実験などの技能を身につける。				○	○	○
2				生物の多様性と生態系	生態系とその保全	生態系と生物の多様性に関する観察、実験、演習などを行い、生態系における生物の種多様性を理解し、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解することができる。	○	○	○